

公益財団法人図書館振興財団

第18回 子どもの本 この1年を振り返って 2017年 ブックリスト

■絵本の部■

一般社団法人 日本子どもの本研究会 絵本研究部

米田 久美江

2017年に出版された絵本の動向

幼い子のふれあいをあたたかな目線で描いた作品、洗練されたセンスの言葉遊びが絵とともに楽しめる作品、これらは絵本の定番的テーマともいえるが、それだけに過去の作品を超えるのは至難の業だ。だが2017年は、声に出して読まれることを意識した活字組みや、ノリのよい言葉のリズムで楽しく読める文章に絵が魅力を増幅させている絵本が増えてきたように思う。コミュニケーションツールとして、さまざまな世代で絵本の活用がひろがっているのも感じられる。そんな用途の広がりもあってか、絵本の形態にもこだわりを持った趣味のよい装幀や興味を引きつける仕掛けをほどこした作品も目立った。宝物にしたいような絵本の魅力を積極的に伝えて絵本人口の増加を期待したい。

周りに絵本大好きという人が増えれば、子どもたちへもきつと届く。

愛が足りない内容の薄い絵本で、目先の売り上げを伸ばすことに頼らざるを得ない出版事情のなかで、長く読み継がれる良質な絵本が毎年少しずつ増え、絵本文化の周知がすすんでいくことを願う。

小さな出版社の絵本への愛あふれる頑張りも注目したい。

◆つながる喜びを表現した〈遊びのなかにユーモア、ワクワクふれあい〉成長の基礎をささえる。

◆感性を刺激する〈声のリズム言葉のリズムを楽しもう！〉詩ごころいっぱい。

◆明日への希望をそだてる〈だいじょうぶ！ 不安や願いがあるから成長〉

◆広がるせかい〈心にしみこむ絵とおはなしたち〉夢と不思議。

◆好きを大切に〈自分らしく生きるっていいな〉個性って大事だな。

◆世界を包含する絵本〈おはなしだいすき！ 本って最高！〉

◆仲間がいっぱい〈ちきゅうに生きる、自然〉わたしの居場所。

◆危機的状況の〈ちきゅうに生きる、環境〉を考える。

◆違いを尊重〈ちきゅうに生きる、異文化〉多様な価値観を育てる。

◆もっともっと〈知りたいな！ いろんなこと〉興味は無限、知ることのできる未来もある。

■遊びのなかにユーモア、ワクワクふれあい

★	幼	『つかまるわけないだろ！』/ティモシー・ナップマン・文, シモーナ・チラオ口絵, ふしみ みさを・訳/徳間書店/2017. 4/¥1500/(絵本)
★	幼	『きみもこねこなの？』/エズラ・ジャック・キーツ・作・絵, 当麻 ゆか・訳/徳間書店/2017. 7(初版:「きみこねこだろ？」ほるぷ出版 1976年刊)/¥1500/(絵本)
★	幼	『ウサギのすあなにいるのはだあれ？』/ジュリア・ドナルドソン・文, ヘレン・オクセンバリー・絵, とた ようこ・訳/徳間書店/2017. 10/¥1700/(絵本)
	幼	『サンドイッチをたべたの、だあれ？』/ジュリア・サーコーン=ローチ・作, 横山 和江・訳/エディション・エフ/2017. 10/¥1800/(絵本)
	幼	『こらっ、どろぼう！』/ヘザー・テカヴェク・さく, ピエール・プラット・え, なかだ ゆき・やく/きじとら出版/2017. 7/¥1400/(絵本)
	幼	『ばけバケツ』/軽部 武宏・作/小峰書店/2017. 7/¥1500/(絵本)
	小低	『ノボルくんとフラミンゴのつえ』(絵本・こどものひろば)/屋田 弥子・作, 高畠 純・絵/童心社/2017. 1/¥1300/(絵本)
	小低	『おさかなどろぼう』(わたしのえほん)/いしい ひろし・作・絵/PHP研究所/2017. 11/¥1300/(絵本)
	小低	『にんぎょうのおいしゃさん』(おひざにおいで)/マーガレット・ワイズ・ブラウン・作, J.P.ミラー・絵, こみや ゆう・訳/PHP研究所/2017. 8/¥1300/(絵本)
★	幼	『きみはライオン！ たのしいヨガのポーズ』/ユ・テウン・作・絵, 竹下 文子・訳/借成社/2017. 9/¥1500/(絵本)
	小中	『劇場ってどんなところ？』/フロランス・デュカトー・文, シャンタル・ペタン・絵, 野坂 悦子・訳/西村書店/2017. 1/¥1600/(771)
★	幼	『パパのぼり』/きくち ちき・作/文溪堂/2017. 6/¥1000/(絵本)
	幼	『パパおふろ』/きくち ちき・作/文溪堂/2017. 6/¥1000/(絵本)
	幼	『あたしのすきなもの、なあんた？』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/バーナード・ウェーバー・ぶん, スージー・リー・え, 松川 真弓・やく/評論社/2017. 11/¥1400/(絵本)
	幼	『おむかえパパ』(おはなしシリーズ)/ナディーヌ・ブランコム・文, オレリー・ギュレ・絵, 中川 ひろたか・訳/主婦の友社/2017. 2/¥1200/(絵本)

■声のリズム言葉のリズムを楽しもう！

★	幼	『えじえじえじえ』/佐藤 可士和・え, 谷川 俊太郎・じ/クレヨンハウス/2017. 4/¥1200/(絵本)
★	小低	『詩ってなあに？』/ミーシャ・アーチャー・作, 石津 ちひろ・訳/BL出版/2017. 6/¥1500/(絵本)
★	小低	『かん字のうた』(詩の絵本)/川崎 洋・詩, 久住 卓也・絵/岩崎書店/2017. 2/¥1800/(絵本)
	小低	『なまずこのっぺ？』/カーソン・エリス・さく, アーサー・ビナード・やく/フレーベル館/2017. 11/¥1600/(絵本)
	小低	『マンボウひまな日』/たけがみ たえ・作/絵本館/2017. 11/¥1300/(絵本)

	小低	『ねばらねばなっとう』(わくわくユーモアえほん)/林 木林・作, たかお ゆうこ・絵/ひかりのくに/2017. 6/¥950/(絵本)
	小低	『はやくちことばでおでんもおんせん』/川北 亮司・文, 飯野 和好・絵/くもん出版/2017. 10/¥1200/(絵本)
	小低	『うそうそかわうそのむかしばなし』(ぴっかぴかえほん)/はやし ますみ・作/小学館/2017. 12/¥1300/(絵本)
	小低	『ちっちゃなちっちゃなものがたり ジェイコブズのイギリス昔話集より』(日本傑作絵本シリーズ)/ジェイコブズ・著, 瀬田 貞二・訳, 瀬川 康男・絵/福音館書店/2017. 1/¥1000/(絵本)
★	小中	『走れ!! 機関車』/ブライアン・フロッカ・作・絵, 日暮 雅通・訳/偕成社/2017. 1/¥2400/(絵本)

■だいじょうぶ! 不安や願いがあるから成長

	幼	『ぼくのイスなのに!』/ロス・コリンズ・作・絵, いしい ひろし・訳/PHP研究所/2017. 6/¥1200/(絵本)
	幼	『よるのクロネコ』/ジョエル・フランツ・ローゼル・作, ベッペ・ジャコッベ・絵, いぶき けい・訳/ワールドライブラリー/2017. 9/¥1000/(絵本)
★	幼	『ゆうかなな3びきとこわいこわいかいぶつ』/スティーブ・アントニー・作・絵, 野口 絵美・訳/徳間書店/2017. 3/¥1500/(絵本)
★	幼	『あさがくるまえに』/ジョイス・シドマン・文, ベス・クロムス・絵, さくま ゆみこ・訳/岩波書店/2017. 12/¥1500/(絵本)
	小低	『こどもってね...』/ベアトリーチェ・アレマーニャ・作, みやがわ えりこ・訳/きじとら出版/2017. 9/¥1600/(絵本)
	幼	『おやすみなさいのおともだち』(講談社の翻訳絵本)/ハインツ・ヤーニッシュ・作, バーバラ・ユンク・絵, 斉藤 洋・訳/講談社/2017. 12/¥1500/(絵本)
	小低	『まっくらやみのまっくら』/ミロコ マチコ・作・絵/小学館/2017. 8/¥1400/(絵本)
★	小中	『ガルマンの夏』/スティアン・ホーレ・絵・文, 小柳 隆之・訳/三元社/2017. 5/¥2000/(絵本)
★	小高	『「いる」じゃん』(MONKEY LABEL)/くどう なおこ・作, 松本 大洋・絵/スイッチ・パブリッシング/2017. 7/¥1600/(726. 6)

■心にしみこむ絵とおはなしたち

	小低	『ゆめみるじかんよこどもたち』/ティモシー・ナップマン・文, ヘレン・オクセンバリー・絵, 石井 睦美・訳/BL出版/2017. 7/¥1500/(絵本)
	幼	『ぼくのねこはどこ?』/ヘンリー・コール・著/岩崎書店/2017. 8/¥1500/(絵本)
	小低	『チャーリーとシャーロットときんいろのカナリア』/チャールズ・キーピング・作, ふしみ みさを・訳/ロクリン社/2017. 4(「しあわせどおりのカナリヤ」(らくだ出版 1982年刊)の改題新装新訳版)/¥1600/(絵本)
	小中	『ふるいせんろのかたすみで』/チャールズ・キーピング・作, ふしみ みさを・訳/ロクリン社/2017. 10(「たそがれえきのひとびと」(らくだ出版 1983年刊)の改題新装新訳版)/¥1600/(絵本)

	小中	『60秒のきせき 子ネコがつくったピアノ曲』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/レズリア・ニューマン・ぶん, エイミー・ジューン・ベイツ・え, 小川 仁央・やく/評論社/2017. 10/¥1400/(絵本)
★	小低	『ななめねこまちをゆく』/ジェyson・カーター・イトン・ぶん, ガス・ゴードン・え, 小手鞠 るい・やく/マイクロマガジン社/2017. 9/¥1600/(絵本)
	小低	『テオのふしぎなクリスマス』/キャサリン・ランデル・文, エミリー・サットン・絵, 越智 典子・訳/ゴ布林書房/2017. 11/¥1500/(933. 7)
	小低	『ファビアンのおまつり』/マリット・テルクヴィスト・作・絵, 長山 さき・訳/徳間書店/2017. 9/¥1900/(絵本)
	小中	『アームストロング 宙飛ぶネズミの大冒険』/トーベン・クールマン・作, 金原 瑞人・訳/ブロンズ新社/2017. 4/¥2500/(絵本)
★	小中	『夢金 古典落語「夢金」より』(古典と新作らくご絵本)/立川 談春・文, 寺門 孝之・絵/あかね書房/2017. 1/¥1500/(絵本)
	小高	『一角仙人 鹿の角をもつ男』(能の絵本)/片山 清司・文, 小田切 恵子・絵/BL出版/2017. 11/¥1600/(絵本)
★	小中	『猫魔ヶ岳の妖怪 福島の伝説』(日本傑作絵本シリーズ)/八百板 洋子・再話, 斎藤 隆夫・絵/福音館書店/2017. 3/¥2000/(絵本)
★	小低	『金剛山のトラ 韓国の昔話』(世界傑作絵本シリーズ)/クオン・ジョンセン・再話, チョン スンガク・絵, かみや にじ・訳/福音館書店/2017. 6/¥2600/(絵本)
	小低	『あおいジャッカル インドの昔話』/マーシャ・ブラウン・作, こみや ゆう・訳/瑞雲舎/2017. 10(「あおいやまいぬ」(1999年刊)の改題, 新訳版)/¥1300/(絵本)
	小中	『ふしぎな銀の木 スリランカの昔話』(世界傑作絵本シリーズ)/シビル・ウェッタシンハ・再話・絵, 松岡 享子・訳, 市川 雅子・訳/福音館書店/2017. 6/¥1400/(絵本)

■自分らしく生きるっていいな

	小低	『ペペットのえかきさん』/リンダ・ラヴィン・ロディング・文, クレア・フレッチャー・絵, なかがわ ちひろ・訳/絵本塾出版/2017. 7/¥1500/(絵本)
	小低	『ピピはいっとうしょう!』/ヒド・ファン・ヘネヒテン・文・絵, 石津 ちひろ・訳/パイインターナショナル/2017. 5/¥1200/(絵本)
	小低	『ハッピーハンター』/ロジャー・デュボアザン・さく, 安藤 紀子・やく/ロクリン社/2017. 9/¥1600/(絵本)
★	小低	『きのうえのおうちへようこそ!』/ドロシア・ウォーレン・フォックス・作, おびか ゆうこ・訳/偕成社/2017. 10/¥1500/(絵本)
	小低	『クマと森のピアノ』(ポプラせかいの絵本)/デイビッド・リッチフィールド・作, 俵 万智・訳/ポプラ社/2017. 10/¥1400/(絵本)
	小中	『みなみへ』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/ダニエル・ダンカン・さく, 山口 文生・やく/評論社/2017. 8/¥1300/(絵本)
	小中	『流木のいえ』/石川 えりこ・作/小学館/2017. 2/¥1400/(絵本)
	小中	『うみべのまちで』/ジョアン・シュウオーツ・文, シドニー・スミス・絵, いわじょう よしひと・訳/BL出版/2017. 7/¥1600/(絵本)
	小低	『くらやみのなかのゆめ』/クリス・ハドフィールド・作, ザ・ファン・ブラザーズ・絵, さくま ゆみこ・訳/小学館/2017. 2/¥1480/(絵本)

★	小中	『マララのまほうのえんぴつ』/マララ・ユスフザイ・作, キャラスケット・絵, 木坂 涼・訳/ポプラ社/2017. 12/¥1500/(絵本)
★	小中	『発明家になった女の子マッティ』/エミリー・アーノルド・マッカーリー・作, 宮坂 宏美・訳/光村教育図書/2017. 9/¥1400/(絵本)
	小中	『6この点 点字を発明したルイ・ブライユのおはなし』/ジェン・ブライアント・文, ボリス・クリコフ・絵, 日当 陽子・訳/岩崎書店/2017. 8/¥1700/(絵本)
	小高	『図書館を心から愛した男 アンドリュー・カーネギー物語』(RIKUYOSHA Children & YA Books)/アンドリュー・ラーセン・文, カティ・マレー・絵, 志多田 静・訳/六耀社/2017. 10/¥1500/(絵本)

■おはなしだいすき！ 本って最高！

★	小低	『としょかんへぴょん！ぴょん！ぴょん！』/アニー・シルヴェストロ・文, タチアナ・マイ=ウイス・絵, 福本 友美子・訳/絵本塾出版/2017. 9/¥1500/(絵本)
★	小中	『この本をかくして』/マーガレット・ワイルド・文, フレヤ・ブラックウッド・絵, アーサー・ビナード・訳/岩崎書店/2017. 6/¥1500/(絵本)
	小中	『わたしだけのものがたり』/パメラ・ザガレンスキー・作・絵, 木坂 涼・訳/フレーベル館/2017. 2/¥1400/(絵本)
★	小高	『本の子』/オリヴァー・ジェファーズ・作, サム・ウィンストン・作, 柴田 元幸・訳/ポプラ社/2017. 6/¥1600/(絵本)
	小低	『エンリケタ、えほんをつくる』/リニエルス・作, 宇野 和美・訳/ほるぷ出版/2017. 8/¥1500/(絵本)

■ちきゅうに生きる、自然

	小低	『ぼくのもものき』/広野 多珂子・文・絵/福音館書店/2017. 3/¥1200/(絵本)
	小低	『くるみのなかには』(講談社の創作絵本)/たかお ゆうこ・作/講談社/2017. 10/¥1400/(絵本)
★	小低	『つちづくりにわづくり』(世界傑作絵本シリーズ)/ケイト・メスナー・文, クリストファー・サイラス・ニール・絵, 小梨 直・訳/福音館書店/2017. 5/¥1600/(絵本)
★	小低	『わたしたちのたねまき たねをめぐるいのちたちのおはなし』/キャスリン・O. ガルブレイス・作, ウェンディ・アンダスン・ハルパリン・絵, 梨木 香歩・訳/のら書店/2017. 10/¥1600/(絵本)
★	小低	『いろいろいっぱい ちきゅうのさまざまないきもの』/ニコラ・デビス・文, エミリー・サットン・絵, 越智 典子・訳/ゴブリン書房/2017. 2/¥1500/(絵本)
	幼	『もうじゅうはらへりくま』(ポプラ社の絵本)/塚本 やすし・作/ポプラ社/2017. 9/¥1300/(絵本)
★	幼	『マンモスのみずあび』/市川 里美・作/BL出版/2017. 8/¥1400/(絵本)
★	小低	『手おけのふくろう』(日本傑作絵本シリーズ)/ひらの のぶあき・ぶん, あべ 弘士・え/福音館書店/2017. 6/¥1400/(絵本)
★	小中	『ランポーのオオカミ王』/ウィリアム・グリル・作, 千葉 茂樹・訳/岩波書店/2017. 9/¥2000/(絵本)
	小低	『森のパンダ』(講談社の翻訳絵本)/唐 亜明・文, 木下 晋・絵/講談社/2017. 6/¥1500/(絵本)

	小中	『森のなかのオランウータン学園』(Rikuyosha Children & YA Books)/スージー・エスターハス・文と写真, 海都 洋子・訳/六耀社/2017. 3/¥1600/(489. 97)
--	----	---

■ちきゅうに生きる、環境

★	小低	『ぞろりぞろりとやさいがね』/ひろかわ さえこ・作/偕成社/2017. 10/¥1400/(絵本)
★	小低	『いろのかけらのしま』(ポプラせかいの絵本)/イ ミョンエ・作と絵, 生田 美保・訳/ポプラ社/2017. 11/¥1400/(絵本)
★	小中	『スラムにひびくバイオリン ゴミを楽器に変えたりサイクル・オーケストラ』/スーザン・フッド・作, サリー・ワーン・コンポート・絵, 中家 多恵子・訳/汐文社/2017. 1/¥1800/(絵本)
★	小中	『あかい自転車 ビッグ・レッドのながい旅』(RIKUYOSHA Children & YA Books)/ジュード・イザベラ・文, シモーネ・シン・絵, 志多田 静・訳/六耀社/2017. 4/¥1600/(絵本)
	小中	『ようこそロイドホテルへ』(未来への記憶)/野坂 悦子・作, 牡丹 靖佳・画/玉川大学出版部/2017. 10/¥1600/(絵本)
	小中	『みどりの町をつくろう 災害をのりこえて未来をめざす』/アラン ドラモンド・さく, まつむら ゆりこ・やく/福音館書店/2017. 2/¥1400/(絵本)

■ちきゅうに生きる、異文化

★	幼	『サイモンは、ねこである。』/ガリア・バーンスタイン・作, なかがわ ちひろ・訳/あすなる書房/2017. 8/¥1400/(絵本)
	小低	『イードのおくりもの』/ファウズィア・ギラニ・ウィリアムズ・文, プロイティ・ロイ・絵, 前田 君江・訳/光村教育図書/2017. 4/¥1300/(絵本)
★	小低	『空の王さま』/ニコラ・デイビス・文, ローラ・カーリン・絵, さくま ゆみこ・訳/BL出版/2017. 11/¥1600/(絵本)
★	小中	『お船がかえる日 チョプラン漂流記』/小林 豊文・絵/岩波書店/2017. 7/¥1800/(絵本)
★	小中	『だれのこどももころさせない』/西郷 南海子・文, 浜田 桂子・絵/かもがわ出版/2017. 4/¥1600/(絵本)
★	小中	『森のおくから むかし、カナダであったほんとうのはなし』/レベッカ・ボンド・作, もりうち すみこ・訳/ゴブリン書房/2017. 9/¥1400/(絵本)

■知りたいな！ いろんなこと

	幼	『ににんにんにんじん』(どーんとやさい)/いわさ ゆうこ・さく/童心社/2017. 10/¥1100/(絵本)
	小低	『きゅうきゅうばこ かがくのとも の けがのてあてのおべんきょう 新版』(かがくのとも絵本)/やまだ まこと・ぶん, やぎゆう げんいちろう・え/福音館書店/2017. 2/¥900/(絵本)
	小低	『すごいね！みんなの通学路 世界に生きる子どもたち』/ローズマリー・マカーニー・文, 西田 佳子・訳/西村書店/2017. 7/¥1500/(絵本)
	小高	『チャールズ・ダーウィン、世界をめぐる』/ジェニファー・サームズ・作, まつむら ゆりこ・訳/廣済堂あかつき/2017. 9/¥1800/(絵本)

	小中	『重力って…』/ジェイソン・チン・作, 竹内 薫・訳/偕成社/2017. 2/¥1500/(絵本)
★	小中	『ながいながい骨の旅』/松田 素子・文, 川上 和生・絵/講談社/2017. 2/¥1800/(絵本)
★	小中	『動物たちは、お医者さん！ 自分で自分を治すすごい力！』/アンジー・トリウスほか・文, フリオ・アントニオ・プラスコ・絵, 古草 秀子・訳/河出書房新社/2017. 12/¥1800/(絵本)
★	小高	『TIMELINE 地球の歴史をめぐる旅へ！』/ピーター・ゴーズ・作/フレーベル館/2017. 2/¥2800/(209)
★	小高	『ネコ博士が語る宇宙のふしぎ』/ドミニク・ウォーリマン・文, ベン・ニューマン・絵, 日暮 雅通・訳/徳間書店/2017. 9/¥2300/(440)
	小高	『ネコ博士が語る科学のふしぎ』/ドミニク・ウォーリマン・文, ベン・ニューマン・絵, 田中 薫子・訳/徳間書店/2017. 12/¥2300/(420)
	小高	『今、世界はあぶないのか？ 2 難民と移民(全4巻)』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/ハナネ・カイ・絵, 大山 泉・訳/評論社/2017. 10/¥1500/(絵本)
★	小中	『ドームがたり 未来への記憶』/アーサー・ビナード・作, スズキ コージ・画/玉川大学出版部/2017. 3/¥1600/(絵本)
★	小中	『春姫という名前の赤ちゃん』(日・中・韓平和絵本)/ピョン・キジャ・文, チョン・スンガク・絵/童心社/2017. 3/¥2500/(絵本)
★	小中	『ばいかる丸 復刻版』(ポニー・ブックス)/柳原 良平・著/岩崎書店/2017. 12(初版:1965年刊)/¥2400/(絵本)

公益財団法人図書館振興財団
第18回 子どもの本 この1年を振り返って 2017年 講演録
■絵本の部■

講演：一般社団法人 日本子どもの本研究会 絵本研究部 米田 久美江

日本子どもの本研究会 絵本研究部会の米田と申します。

今年初めて、この絵本の部の発表を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

昨年度もたくさんの絵本が出ました。その中でも特に、これからもずっとみんなに読みついでいていただきたいと思えるような本を選んで発表するつもりです。

■遊びのなかにユーモア、ワクワクふれあい

まず1冊目は、『つかまるわけないだろ!』。ネズミのジェイクが足の速さを自慢して、「つかまるわけないだろ!」とすごい速さで逃げていきます。とてもダイナミックな絵が魅力の絵本です。色々な動物の前を逃げていき、誰にも捕まえられません。しかし、最後は古典的なパターンを踏襲した展開。愉快的な絵本です。

次は『きみもこねこなの?』。1976年に、西園寺祥子さんの訳で『きみこねこだろ?』(ほるぷ出版)という本が出版されました。その再刊です。子犬が子猫たちに「きみも こねこなの?」と問われ、「えっと…… そう!」。彼らが一緒に遊ぶ姿がとても愛らしく、見ているだけでほんわか。胸がキュンとなる絵本です。

『ウサギのすあなにいたのはだあれ?』では、動物たちが自分の巣穴に入ろうとしたら、中から大きな声が。「おいらは はらぺこ ぴょんがぶりん」「くっちゃうぞ!」。怖がって誰も巣穴に入りません。熊もゾウも、みんな怖がっています。そこへカエルのお母さんがやってきます…。これはアフリカの昔話のアレンジなのでしょうか。以前、類話で『ウサギのいえにいたのはだれだ?』(ほるぷ出版, 1980年)というマサイ族の民話絵本がありました。

続いて『きみはライオン! たのしいヨガのポーズ』です。ヨガのポーズをとって、大きな口を開け、舌を突き出したら、君はライオンだ。チョウになったり、犬になったり、最後は寝転がってリラックス。自然との一体感を感じましょう。体幹を鍛えながら遊べる、楽しい絵本です。

『パパのぼり』は赤ちゃん絵本です。「ぶーん」。こぐまちゃんが、おもちゃのバスを手で走らせています。パパはお山です。こぐまちゃんとバスは一緒に進みながら、パパの体をお山に見立てて登っていきます。途中、危険もあるけれどついに登頂。こぐまちゃんの心は達成感でいっぱいになります。世界を凌駕したような満足感で満たされているのではないのでしょうか。最後は「パパすべり」。パパと一緒に遊ぶ遊びです。

■声のリズム言葉のリズムを楽しもう！

次は、感性を刺激する、詩心いっぱいの絵本たちです。まず『えじえじえじえ』。

「ばばばーん！」で始まる言葉のリズムと、語感の面白さを、目と耳で楽しみたい絵本です。「すい」「きーん」「すぱん」をはじめ、ひらがな、カタカナ、漢字、アルファベットなど色々な文字でデザインされています。文字を見ているだけでも、何だか心がワクワクしてきます。

次は『詩ってなあに？』。大好きな公園で、ダニエルがポスターを見つけました。「詩のはっぴょうかい」と書いてあります。詩って何だろう。ダニエルは疑問を、仲良しの生き物たちにぶつけます。そしてその会話の中で、自分の詩心を見つけていくのです。詩心は、自然との対話で育っていくものではないかと思えます。

『かん字のうた』。絵本の中で展開する1つの詩。川崎洋さんの詩に絵を付けた作品です。「林がありました 木がふえて 森になりました」「花が早く早くといったので 草になってしまいました」「田んぼで 力を入れたら 男になりました」「石にだって 口があります」。ユーモアのセンスが、漢字を楽しくしてくれます。これを読むと、漢字を見たときに色々な想像が膨らむのではないかと思えます。

鉄の道ができて世界が変わった。『走れ！！機関車』です。その当時の情景を、素晴らしい絵と言葉で描きだします。言葉にとってもリズムがあります。「カンカン！カンカン！」「ハーッ」「ヒュー」。オノマトペを読むだけでも、小さなお子さんも十分楽しめるのではないかと思えます。ダイナミックだけど、とても繊細な絵です。ストーリーにも臨場感があふれていて、昔の列車の様子や当時の窓から見える景色など、分かりやすく描かれています。鉄道専門用語がたくさん登場しますが、お子さんから大人まで深く味わえて楽しめる絵本ではないかと思えます。

■だいじょうぶ！ 不安や願いがあるから成長

『ゆうかなな3びきとこわいこわいかいぶつ』。「かいぶつが出た」と言って、みんながわれ先にと逃げ出していきます。しかし、怪物はどこにいますか？ 怪物が街中を移動していく様子や、どこに行ったかを探すのが楽しい絵本です。フードをかぶっているけど、実はびっくりするほどかわいい顔をした怪物。最後、3びきと怪物はどうなるのでしょうか。

眠っている間に舞い上がるものと舞い落ちるもの。一夜の雪が変える世界を描く、子どもの夢のお話『あさがくるまえに』です。スクラッチング技法で描いた絵はとても味わい深く、「どうかおねがいです。一度でもいいから」と添えられたお祈りの詩がとても心に響きます。夢が夢の中で解き放たれ、いい夢を見るってすてきだ、大事なことだと感じさせてくれます。

『ガルマンの夏』。こちらの原書は2006年に刊行されましたが、日本人には少々なじまない絵だと思われたのでしょうか。ようやく2017年に日本で出版されました。夏が終わり、もうすぐ秋。ヨーロッパでは9月が入学式のようなですね。小学校へ入学する息子のために、絵描き

のお父さんが描いた絵本です。子どもとお年寄りを対比させつつ、子どもの不安な心を精緻な絵で描いています。コラージュも取り入れているようです。子どもから見た3人のおばあちゃん。子ども特有の老いを見る目が何といいですか、辛辣さとユーモアの両方を兼ね備えていて、本当に味わい深い絵本だと思います。

続いて『「いる」じゃん』。「だれかいるかー」と、地球が叫びます。だんだんにぎやかになっていく地球の中で、本当に一人ぼっちでさみしい心を感じることは、誰にでもあるのではないのでしょうか。そんなときに、誰かいるか？ と心の中で叫んでみてください。きっと誰かが答えてくれるはず。絵のない、字だけのページで、しみりと自分のイメージを育む絵本です。きっとそばに誰かがいてくれる、頼もしいねという気持ちになれる絵本です。

■心にしみこむ絵とおはなしたち

広がる世界、夢と不思議を描いたお話を紹介します。まず『ななめねこまちをゆく』。斜めになって歩く、体の少し傾いた猫のお話です。頭を斜めに傾けてみたら、世界がちよっと変わって見えるかも。最初にななめねこを見た人が、その真似をしてみると、今までとは違う色々な世界が見えてきます。ななめねこを見た途端、ペンキ塗りさんは斜めにペンキを塗ってしまいました。だけどみんなが斜めに見ていると、今度は、ななめねこは体を真っすぐにして街を去っていきます。「ちよっと視点を変えてみたら？」という発想の本です。

古典落語を絵本にした『夢金』で描いているのは夢の世界。背景が黒で、少し怖そうに見えますが、「百両 ほしいー」という寝言の末に、見た夢が描かれています。思わず引き込まれる展開の面白いお話です。

『猫魔ヶ岳の妖怪』。こちらは福島県の伝説を4話集めた絵本です。「猫魔ヶ岳の妖怪」と「天にのぼった若者」「大杉とむすめ」、そして「おいなりさまの田んぼ」。どのお話も、自然としっかりつながった人間の生活を描いています。郷愁を誘う絵はとてもお話にマッチしていて、昔話を描いた絵本には、「お話だけのほうがよい」と思わせるようなものも多い中、絵が物語を助けている作品ではないかと思います。自然に対峙する謙虚な福島地方の人々の気持ちも、しっかり伝わってきます。

韓国の昔話を絵本化した『金剛山のトラ』。こちらも今まで、お話し集などに収録されていた作品でした。金剛山のトラに襲われて死んだ父親の敵を討つため、主人公のユボギは体を鍛え、数々の試練に打ち勝って大トラ退治に出かけます。途中、ユボギを助けてくれる人と出会ったり、トラの腹の中に入ったりと大冒険をしながら、最後は村に平和をもたらします。ユボギの気迫を絵が後押ししています。

■自分らしく生きるっていいな

『きのうえのおうちへようこそ!』。木の上に住んでいるツイグリーさんは、みんなからとても

変わり者だと思われています。そんな彼女は人に会うことが少し苦手。動物たちと一緒に暮らしています。ツイグリーさんの代わりに買い物に行くのは、相棒の犬の「ニャンコ」。市長の奥さんにはずいぶん嫌われていますが、ある日、嵐が来て洪水が起きました。そこでツイグリーさんが取った行動は…。木の上の生活は楽しそうです。心の温まるお話です。

続いて紹介するのは、『マララのまほうのえんぴつ』です。タイトルの「まほうのえんぴつ」は、マララが子どもの頃に見ていたアニメに出てきたツール。まほうのえんぴつで書かれたものは、何でも本物になるのです。ある日、町のゴミ捨て場で出会った子どもたちが学校へ行っていないことを知り、お父さんに訳を尋ねます。そしてマララさんは、子どもたち皆が学校へ行けるような差別のない世の中が来ることを願い、声を上げていきます。ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさん自身で書いた本は、やはり説得力が違うように思います。子どもたちにも勇気を持って、おかしいことは「おかしい」と言えるように育ててほしいと思います。

次は、『発明家になった女の子マッティ』。子どものときから自身で工夫をしつつ、おもちゃやお兄ちゃんたちの凧など、色々なものを作るのが大好きだった少女マッティ。設計図をひいて、あれこれ考えつつ発明を行い、家族の役に立つ道具をたくさん作ります。大人になり、実業家となった彼女は発明を盗まれたりもしますが、裁判で争い、自身の発明であることをきちんと証明もします。19世紀末のアメリカで、女性がこれだけ活躍していたという事実は、とても励みになるのではないのでしょうか。

■おはなしだいすき！ 本って最高！

次は、本にまつわる絵本たちです。

『としょかんへびよん！びよん！びよん！』は、本が大好きなウサギのお話。タイトルも表紙もとても楽しい絵本です。ある日、ウサギは図書館の前での読み聞かせを聞いて、本が大好きになります。そしてこっそり図書館に忍び込み、面白そうな本をたくさん家に持って帰ります。穴にこもって本を読んでいると、次々に友達が訪ねてきて「なにしてたの？」。そこで、ウサギは友達を図書館に案内。しかし最後、司書さんに見つかってしまいます…。この本を読んだ後は、図書館に行ったら「ウサギさんやクマさんは何を読んだのかな」と探したくなるのではないかと思います。

『この本をかくして』では、戦争の記憶が1冊の絵本になりました。

爆撃を受けて壊滅状態になった町。図書館の本も全て破壊されてしまいました。しかしピーターのお父さんが借りていた1冊の本だけが残り、お父さんは本を抱えてピーターと共に戦火を逃れます。その後、お父さんから本を受け継いだピーターはそれを木の根元に埋め、戦後に掘り返し図書館に返すのです。この絵本で使われているコラージュの技法がとても素敵です。このコラージュもお話に深みを持たせているような気がします。

『本の子』。こちらは少しマニアックな本かもしれません。わたしは本の子。「本の子」である

女の子が、想像力のいかだに乗り、言葉の波と言葉の海を進んでいきます。そして、女の子は言葉の道に沿って歩き、空想の山に登ります。どんな物語が、タイトルがあるかな。文章の断片が、波や道や山、雲、木まで作っています。全てが物語の言葉です。少し背伸びをしたい本好きの女の子などは、この絵本は宝物になるのではないのでしょうか。

■ちきゅうに生きる、自然

次は、自然環境の本です。

『つちづくりにわづくり』。女の子がおばあちゃんと庭仕事をしています。すてきな文章と色調を抑えたラフな筆遣いで、「小さな庭師たち」である虫たちが、地面の上と下で、春から冬までそれぞれの季節に活躍する様子が描かれています。手には種、頭には夢、人間の仕事が自然の営みに共存する道理を、魅力的で豊かに表現している絵本です。細やかな観察力や自然に対する愛情が、読んでいると自然に養われていくような感覚を与える絵本です。

『わたしたちのたねまき』。大風のたねまき。風で種が飛ばされます。「フーウウー」という擬音の使い方がとてもいいですね。太陽のたねまき。パチン！パチン！種がはじける音です。雨のたねまき。動物たちも私たちも、植物の種が拡散する仕組みを担っています。繊細で柔らかな絵とオノマトペを効果的に使って、声に出して読むと楽しい絵本に仕上がっています。

続いて『いろいろいっぱい』。地球上には数え切れないほど多くの生き物がいます。小さなものからゾウみたいに大きいものまで至る所に。見た目では見分けるのが難しいものの中にはいます。似ているけど違うもの、違うけど同じもの。全ての生き物が複雑に絡み合って、1つの大きくて美しい模様を織り上げている、それが地球です。人間も模様の一部。美しい模様を織り上げていきたいと思わせてくれる絵本です。

次はインドのお話です。『マンモスのみずあび』。作者がインドまで行って作ったお話のようですね。ある日、アプーズは初めて一人でゾウを水浴びさせに川へ行きました。ゾウの水浴びは、いつもはお父さんの役割。するとモンスーンがやってきて、川の水かさがどんどん増え、動物たちが流されてきます。ゾウは動物たちを次々に助けますが、その後で流れてきたものは…。こんな暮らしがあるということを知るのも、子どもたちに夢を与えてくれるのではないかと思います。

『手おけのふくろう』。春になると、食べ物の多い人里にやってくるフクロウがいます。しかし、いつも巣作りをしていた木が倒れてしまっていました。さて、どうしよう。手おけを見つけました。その中で子育てをするフクロウと、さりげない人の気配りが描かれています。環境への配慮がテーマとなっているのでしょうか。

『オオカミ王ロボ』のお話とシートンの伝記を交えた絵本として描いた『カランポーのオオカミ王』。博物学者で画家でもあったオオカミハンターのシートンが、オオカミ王ロボを追い、捕まえて家に連れて帰ります。そのオオカミから、動物の尊厳を教えられた瞬間を描いています。

この出来事のあと、シートンは「ロボ：カランポーの王」を一気に書き上げたようです（p. 72）。素朴でエスニックな絵が、当時のアメリカ西部テキサス州の雰囲気を感じさせます。用語集も付いています。

■ちきゅうに生きる、環境

『ぞろりぞろりとやさいがね』。みみずの和尚が造反した野菜たちを諭す、恨めしそうな絵が特徴の、「楽しい」というか「怖い」といいますか…素敵な絵本です。冷蔵庫や物置で忘れられた野菜たちが、ぞろぞろ出てきて人間たちへの不満をぶちまけます。そこへやってきたのは、みみずの和尚。「こころが くされば、にどと おいしいやさいに うまれかわることは できんぞ。」と諭します。そこで最後に野菜たちが取った行動は…。こちらはお話会で読んで、とても反応が良かった絵本です。ぜひ夏に、異色の怪談話(?)として加えていただきたいと思います。

次は『いろのかけらのしま』。海にできるプラスチックの島があります。海流に乗って集まったプラスチックプラスチックだから、様々な色のかけらが混じっています。海鳥がお話をしています。そこをすみかにする鳥もいるのですね。ゴミで困っている彼らの様子が、とても良く描かれています。墨の香が好きだという作者が、微妙な色合いを乗せて、差し色をうまく加え、寂寥感もあるけれど素敵な絵本に仕上げられています。

リサイクルをテーマにした『スラムにひびくバイオリン』は南アメリカを舞台にしたお話です。ゴミの町で生まれ育ったアード。彼女が11歳になったある日、おばあちゃんが勝手に申し込んだ音楽教室に行くことになります。それを聞いたアードの胸は高鳴りますが、レッスンに集まった子どもの数の方が多く、楽器が足りません。そこでチャベス先生は、ゴミの中から楽器を手作りします。ドラム缶はチェロに、水道管はフルートに。必要は発明の母と言いますが、ゴミから生まれ変わった楽器で、素晴らしい演奏が生まれました。

続いて、『あかい自転車』。とても大事にしていたけれど、小さくなったからもう乗れない。手放すのは本当に心が痛むけれど、どこかで役に立つところがあったら…と、北アメリカの男の子が自転車を寄付します。その自転車が整備されてアフリカの地に届けられ、人々の暮らしに大きな役割を担っていくお話です。自転車の寄付の取り組みを紹介しています。個人による寄附はまだあまり聞きませんが、日本でも、放置自転車を東南アジアやアフリカに送る自治体があるようです（注1）。

■ちきゅうに生きる、異文化

『サイモンは、ねこである。』。子ねこのサイモンに、「ぼくたち、にてますね」と言われ、大笑いするトラやライオンや大型のネコ科の動物たち。確かに模様や大きさは全然違いますが、尻尾や爪など細かいところを比べてみると…。「それ ぜんぶ、ぼくも もってます」とサイモン。仲間探しの絵本です。

『空の王さま』。故郷である、明るいローマとは違い、暗くて石炭の臭いのする町に引っ越してきた「ぼく」。絵から、彼の孤独感が伝わってきます。ある日、彼はエバンズさんと出掛けて、伝書バトを見せてもらいます。そこで自分のハトを手に入れ、長距離のハトレースに出すことに。「空の王さま」とは、少年の夢を託したハトの名前です。絵だけのページが途中で挿入され、とても素敵です。物語に深く入りこめる絵本ではないかと思います。ハトに新しい町で生きていく勇気をもらおうお話です。

小林豊さんの絵が素敵な、『お船がかえる日』。200年以上前、日本が鎖国状態だった頃、函館から江戸に向かった船が途中で嵐に遭い、2カ月も漂流したのち台湾のチョプランに流れ着きます。主人公は市松という少年。彼は5年にわたってこの地で過ごすことになります。少年、市松の目を通して描かれた物語です。

『だれのこどももころさせない』は、「戦争はさせない」という「安保関連法に反対するママの会」のコールから生まれました。ニュース等で紛争の映像を見たときに、おそらく子どもたちも不安になることと思いますが、このようにシンプルに「戦争は反対」「戦争はさせない」という絵本を読んであげると安心するのではないかと思います。

『森のおくから』。本書の見返しに動物の絵があります。作者のレベッカ・ボンドさんの祖父が5歳の頃、実際に体験したお話です。ホテルを経営していた彼女の祖父の家の近くの森で、山火事が起こりました。どうすることもできずに逃げ惑う人たちが集まったのは近くの湖。そこへ動物たちも逃げてきます。山火事の恐ろしさはニュース等でも見ますが、動物も人も一緒に分け隔てなく湖に避難していた、こんな話が本当にあったのだと子どもたちの心にも、とても響くのではないのでしょうか。絵本の形にしてくれたボンドさんに感謝したい気持ちです。

■知りたいな！ いろんなこと

骨の始まりを、約46億年前の地球が生まれたときからとどろ、悠久の時の流れを描いた『ながいながい骨の旅』。胎児の発達と重ねて紹介しています。背骨ができたことで、私たちがこうして地球の上を歩いていけるということを豊かなイメージの絵にのせて描いています。

『動物たちは、お医者さん！』は、デフォルメされた動物や鳥、昆虫たちが本来持っている、体を癒やす力について解説しています。日本にも同じような行動を取る動物もいますので、子どもたちにも分かるのではないかと思います。各ページの折り返しを開くと「治療法」も書かれています。

続いて『TIMELINE』はビッグバンから現在までの歴史的な事項が描かれた大型絵本です。作者の趣味が展開しているのではとも言える、とても素敵な歴史のイラスト集です。大きな見開きに素晴らしい構図のイラストが踊り、その余白もいい味を出していて、思わず自分の興味を書き足したくなるような知的好奇心をくすぐってくれます。

イラストが新しい感覚の『ネコ博士が語る宇宙のふしぎ』。興味を引くポイントを押さえていて、コメントがとても分かりやすく楽しい、センスのよい本です。解説はネコ博士が行っています。未知の宇宙を考えるイラストと色のバランスが目に優しく訴えかけて、とても読みやすく楽しい絵本だと思います。

『ドームがたり』。広島原爆ドームが、目に見えない放射能の原子を可視化し、当時の様子を語ってくれます。見えないかけらが目に見える形で描かれ、戦争や原爆が残した傷痕について訴えています。また、放射能が益々蓄積されつつある状況の中、戦争や原爆だけでなく、放射能そのものの恐ろしさを描いた絵本は貴重ではないかと思います。

同じく原爆について描いた『春姫という名前の赤ちゃん』。日・中・韓平和絵本10冊目です。ヒロシマで胎内被ばくを受けて産まれてきた子どものお母さんと、近所の小学校に通う女の子の交流のお話です。春姫（チュニイ）は胎内被ばくを受けたせいで、ずっと寝たきりの生活をしています。筆遣いの素朴なタッチが理不尽な戦争被害を訴えています。

次は、『ばいかる丸』。こちらも、1960年代に出版された本の復刻版です。大正10年に造られた客船「ばいかる丸」。当時は、満州へ人を運んでいましたが、戦争が始まり、病院船に変えられました。昭和20年には機雷に触って大きなダメージを負いましたが、戦後は改造され、捕鯨船として使われたそうです。1960年代、この絵本が作られた当時までの「ばいかる丸」の活躍を描いています。船の好きな子どもがこの本で、戦争や捕鯨の歴史を知ってくるとよいと思っています。横浜みなと博物館内に、この本の著者 柳原良平さんの常設展示室が今月末にオープンするそうです（注2）。

以上、私自身の好みも多少入っていますが、素敵な絵本を紹介できたのではないかと思います。皆様、ご清聴どうもありがとうございました。

（於：株式会社図書館流通センター 2018年3月12日・13日）
※本図書リストおよび講演録の無断転用・複製は固くお断りいたします。

注

1) 再生自転車海外譲与自治体連絡会【ムコーバ】

「加盟会員一覧（12加盟自治体とジョイセフ）」

<http://www.mccoba.jp/outline/list/index.html#cbc81bcc>

最終確認日：2018年6月22日

2) 横浜みなと博物館 「2018/3/27(火) 柳原良平アートミュージアムOPEN!!!」

<http://www.nippon-maru.or.jp/y-museum/>

最終確認日：2018年6月7日